

歯科における明度とは何か？

我々はセラミッククラウンを製作する上で、常に安定した品質での製作を行いたいものであります。最近ではオールセラミックスの表面ステインでの製作されたクラウンも多くなってきており、世界的にもそのような傾向になっています。しかし、残存歯に近似させ製作しなければならない中切歯単冠のケースのような場合には、そのような簡便な技術とは反対に、通常の臨床ケース以上の品質を求められ、苦勞した経験のある技工士は少なくないと思います。そのようなケースの場合、せつかく色調を追いかけて近似させても、なんか雰囲気が違うと感じたり、そのために再製を求められた経験に出会ったことは誰にでもあるのではないのでしょうか？このなんか違うといった現象は個々の歯牙の持つ明度が影響し、この天然歯の明度と補綴物の明度のズレが、補綴物を口腔内に装着したときになんか雰囲気が違うということに繋がってきます。

そこで我々は「明度とは何なのか？」を整理しなければなりません。一般的に言われている明度とは、「白～黒」といった表現で表されますが、これは二次元での世界（印刷物）のことで、我々が製作する歯牙（三次元）においては、この明度表現は当てはまらずその表現は間違いだと私は考えています。

そこで、私が考える

- 1) 明度とは何か？
- 2) 明度の違いをどうやって見分けたいのか？

をこの講義を通して考察し、明度を理解していただき臨床に役に立てただけなら幸いと思っています。